

「Dogs 7days」

ジョン♂(7) ミニチュアピンシャー
マックス♂(3) ビーグル
リリィ♀(3) ウエルシユコーギー
チャコ♀(9) トイプードル
ビート♂(7) ボーダーコリー
レオ♂(12) ミニチュアシュナウザー
シヨコ♀(6) マルチーズ
ナナ♀(2) チワワ
エルビス♂(6) ダルメシアン

郊外にある動物愛護センター、迷い犬収容所。

舞台奥に鉄扉。

舞台の客席側は格子という設定。

ゴウン、ゴウンという機械音。

明りがつくと、ジョンと、マックスが胸倉をつかみ合っている。

上手奥にあらぬほうを向いて、澄ました顔のチャコ。

ジョン なんだ、君は。いきなりつかみかかってくるなんて失礼じゃないか。

マックス ここはどこだって聞いてんだよ。何も答えねえから、つかみかかっているんじゃないか。

ジョン 私だって、ここがどこだか知りたいよ。何なんだ、いったい。私を急にこんな狭いところに入れて。いきなり車に乗せられたと思ったら、次はこの檻の中だ。俺がいつか。

マックス まったくだ。いきなり車に乗せられたと思ったら、次はこの檻の中だ。俺がいつか何をしたらっていうんだ！

ジョン まあ、少し冷静になろうじゃないか。どうして、こんな息苦しいところに閉じ込められているのか、冷静に考えようじゃないか。

マックス おっさん、冷静になって考えてる場合じゃねえだろ。ここはおかしい。普通の場合じゃない。何か聞こえるだろ。大きな機械がゴウン、ゴウンと動く不気味な音が。

ジョン 確かに。

マックス ゴウン、ゴウン、ゴウン。

ジョン ゴウン、ゴウン、ゴウン、ゴウン。

マックス 何か恐ろしいものが迫ってきそうな嫌な音だ。

ジョン こんなところからは早く脱出したほうがいい。

マックス そうだよ、やっと気付いたか、おっさん。

ジョン おっさんはやめなさい。私だってねえ、ちゃんと名前があるんだから。

マックス 名前って……。

ジョン ご主人がつけたんだから、しょうがないじゃないか。
マックス わかったよ、おっさんじゃかわいそうだから、聞いてやるよ。
ジョン ジョン。俺はジョンだ。
マックス 俺はマックス。よろしく。

ジョンとマックス、お尻の匂いを嗅ぎ合おう。
チャコが、近くにやってくる。

チャコ 私は、チャコ。よろしく。

ジョンと、マックス、チャコのお尻の匂いを嗅ごうとする。
舞台を駆け回る三匹。

チャコ やめて！ 私、お尻の匂いを嗅がれるのは嫌いなもの！

ジョン (マックスに) 挨拶の基本じゃないか、なあ！

マックス そうだ、挨拶だ。

チャコ だから、その挨拶がいらなくて言うてるのよ。発情してんじゃないわよ。このオスどもが。

マックス ふざけんな、ばばあ。お前に発情なんてするわけねえだろ！

チャコ ばばあー？ このビューティフルなあたしに向かって、公然とばばあ！ 訴えるわよ！

ジョン マックス言い過ぎだろう。いくらそうだとしても。

チャコ ジョン、あなた、ジョンって言ったわよね。あんたも訴えるわ。

ジョン 私はこれでも、いま、あんたをフォローしたつもりなんだけどね。

チャコ フォローになってないわよ、全然！

ジョン 好きにしろ、挨拶はいい。

ジョン、マックス、チャコから離れる。

チャコ、二匹に触られたところを手で払っている。

チャコ、潔癖に近い綺麗好き。

ジョン しかし、参ったな。格子と壁に囲まれている。しかも出口は奥に一つだ。逃げられそうにないな。

マックス これじゃあ、罪人みたいじゃないか。

チャコ 私たちは何も悪いことなんてしてないでしょ。

マックス じゃあ、どうしてこんなところに入れられなきゃいけないんだよ。主人がちゃんと俺をつないでおかないから、こんなことになってるんだ。

ジョン なんだ、君は主人の家から抜け出してきたのか。

マックス 新聞配達の兄ちゃんが来て、必死に吠えてたんだ。そしたら、首輪が抜けてき、そのまま出てきちゃったんだ。

ジョン そりゃあ、自業自得ってやつじゃないか。抜け出して来た君が悪い。
マックス 首輪が外れたんだよ。主人がしつかりつないでおかないからいけないんだ。
チャコ それで、外をほっつき歩いているところを捕獲されて、ここに連れられてきた、と。そういうわけ？

マックス まあ、そんなところ。っていうか、そのまんま。
チャコ そりゃ、自己責任だわ。でも、いいじゃない。それだったら、主人が迎えに来てくれるでしょ。私の大事なワンちゃんはどこに行ったのかって必死に探してるわよ、きつと。

マックス どうかな。俺は嘔み癖があつて、ずいぶん主人を悩まして来たから。
ジョン (マックスに) 初対面の僕にいきなりつかかってくるんだ。ずいぶん威勢がいいと思つたよ。

チャコ (マックスに) レディーの気持ちも考えないで、お尻の穴、嗅ごうとするのはやめてほしいわね。

マックス じゃあさ、あんたらはどうしてここに運び込まれたわけ？

ジョン それは、あれだよ。やむにやまれぬ事情があつてというやつで……。

チャコ そう、どうにもならないことってあるもんよねえ。

マックス もしかして、捨てられてきたとか？

ジョン ……。

チャコ ……。

マックス 図星だ。なんだ、あんたら脱走したんじゃないやなくて、捨てられたんだ。捨て犬つてやつだ、要するに。

ジョン 捨て犬だろうが、なんだろうが、ここに連れて来られたことに違いはないじゃないか。

マックス そうか、捨てられたんだ。こりゃ、笑えるわ。

チャコ マックス、あんたねえ、出会って間もない相手に対して、それは失礼なんじゃないの。笑えないわよ、全然。

マックス 忠実にご主人さまに仕えてきたのに、捨てられたんだ。これが笑わずにいられるかよ。

マックス、意地悪く笑う。

ジョン 君は礼儀というものを知らないみたいだね。

チャコ 同感。

ジョン 最近の若者は、やたらにキャンキャン吠えて、あま嘔みしてくるが、あま嘔みになつてないときがある。血が出るほど嘔まれたらそれは遊びじゃないだろう。

チャコ ああ、思い出したわ。あのセントバーナード。こっちは、上品に通りすがつただけなのに、いきなり嘔みついてきて。あれもあま嘔みじゃなかったわ。一瞬、嘔み殺されるかと思つたわよ。

ジョン どれくらい嘔んだら、血が出るかってことがわかつてないんだ。飼い主のしつつけが悪いんじゃないのかな。

マックス 俺の主人が悪いっていうのか。

ジョン 少なくとも、優秀じゃないね。君の噛み癖を直してないわけだから。しつかけを怠っているというわけだ。

マックス 俺の主人を悪く言うな。

ジョン おっ、忠犬ハチ公じゃないか。あれは秋田犬だがね、君は見たところ、ビーグルだ。

マックス そういうあんたはミニチュアピンシャーか。ドーベルマンに似てるからって偉そうにすんなよ。あんたはミニピンだ。

ジョン ミニピンって言うな。これでも運動能力は極めて高いんだ、私は。

ジョン、舞台を駆け回り、飛び上がったたりするが、すぐに息が切れてせき込む。

マックス 大したことないじゃないか。

ジョン 若い頃はもつと走れたんだ。シャシャーつとフリスビーを追いかけてスチャツとくわえたもんさ。

マックス 老犬か。

ジョン まだ、そこまで言っていない。中年だよ、中年。これだけ走ればいいほうだろう。

チャコ ミニピンにビーグル。血統では私のほうが断然、上ね。

マックス トイプードルだからって、偉そうにすんなよ。

チャコ あたしの祖先はねえ、かの有名なフランス王、ルイ16世に王宮で飼われていたのよ。あんたたちとは品と格が違うのよ。そこところ、しつかり頭に叩き込んでおいてよね。

マックス トイプードルと言っても、しつかり老犬じゃないか。

チャコ まだそこまですてないわよ。もう少し若さで踏ん張れるわ。

マックス あきらめろ。おぼはんが無理に、若くあろうとすると、逆に醜く見えるんだ。私、あきらめてるんです、でも女です、ぐらいいがちようどいい。

チャコ 偉そうなこと言うんじゃないわよ。この若造が！！

チャコ、マックスを叩き始める。

ジョン ちよつと、奥さん、落ち着いて。

チャコ 私は結婚してません、独身です。

マックス その年で独身かよ。

チャコ うるさーい！

チャコ、思い切りマックスを投げ飛ばす。

マックス、壁にぶつかる。

マックス 何すんだ、ばばあ！

チャコ ばばあ、ばばあってうるさいわね、この若輩者が！
マックス その言葉が古いつていうの！
チャコ (ジョンに) ちよつと、あんた、あの子、どうにかして！
ジョン どうにかして、と言われても……。
マックス この檻の中じゃどうにもならねえつてか。

ゴウン、ゴウン、ゴウンと響く音。

マックス まだだ、またあの音だ。

ジョン 不快な音だな。

チャコ もしかして、あたしたち死ぬんじゃないかしら。

マックス えっ？

チャコ だって、そうでしょう。私たちを捕まえて、この檻に入れて、いつまで私たちをこのままにしておくかしら。

マックス ……。

ジョン 悲観的に考えるのはよしましょう。また、ここに連れて来られたばかりだ。すぐに何がどうこうなるつてこともないでしょう。

チャコ (冷めた口調で) そうだといいいけど。

マックス 死ぬのは嫌だ。

ジョン 考えすぎだつて。大丈夫だ、きつと……。

鉄の扉が開き、リリー、ビート、ナナが現れる。

リリー 何、ここ？

ビート ずいぶん辛気臭いところだなあ。

ナナ いっぱいいる、犬が。

マックス 新入りか。

ジョン ようこそ、犬の楽園、パラダイスランドへ。

チャコ ちよつと、ちやかすのはやめなさいよ。

ジョン 軽いジョークですよ、ジョーク。アメリカンジョーク。

チャコ 全然、アメリカンじゃない。

ジョン ちよつとでも重い雰囲気振り払おうとしてるんだ。

チャコ だったら、もう少し、気のきいたジョークをかましてほしいわね。

リリー ああ、いったい、ここは？

マックス、リリーに近寄つて、

マックス 面白いだろ。格子と壁に囲まれてる。奥には鉄扉が一つ。刑務所みたいだが俺たちは人間じゃない。何の罪もおかしてない。なのに、こんな狭い場所に閉じ込められてる。

リリイ あの、あなたは？

マックス 俺は、マックス。そこそこそこにいるのが、俺と同じ先住民のジョンとチャコだ。犬種の説明は省く。そこいらの雑種だ。

ジョンとチャコ、あきれた表情。

マックス 君の名前は？

リリイ 名前？

マックス そう、君にもご主人様がいらっしゃるだろう。

リリイ リリイ。

マックス リリイか。

ビート (手を挙げて) 俺はビート。

マックス あんたの名前は聞いてない。

ナナ 私はナナ。チワワのナナです。

マックス ナナちゃんか。俺はビーグルのマックス、よろしく。

マックス、リリイとナナのお尻の匂いをさっと嗅ぐ。

マックス 大歓迎。若い女の子は、俺の好みだ。

チャコ チッ！

ビート あの一、僕はビートです。あっちの方たちにもご挨拶を。

ビート、ジョンとチャコの近くに寄ってきて、

ビート どうもビートです。

チャコ お尻の匂いを嗅がれるのは嫌いな。

ビート わかりました。誰でも苦手なことっていうのはありますからね。僕はそこを尊重し合い、補いあって生きていくのが犬の道だと思えますね。

マックス どこから来たの？

ビート いやね、近くにアランという盲導犬の友人がいますね。そいつに会いにいらしたと思って、主人の目を盗んで、さっと家から飛び出したのはいいんですが、アランの家の前でウロウロしている間に、人間に捕まってトラックに乗せられましたね。

ジョン 捕獲されたわけだ。

ビート ええ、まあ、そんなところです。早いとこ、ご主人様に見つけてもらわないといけませんね、ここはどうにも空気が悪い。

チャコ もう二度とご主人様には会えなかつたりして。

ビート 冗談やめてくださいよ。家族なんですから、それはありませんよ。

ジョン ちなみに私は雑種じゃない。

チャコ 右に同じく。

ビート そうだと思いましたよ。お二人とも気品がおありになる。かくいう自分も純血種と言いたいところなんです。雑種です。

ジョン まあ、純血種でも雑種でも、そんなことはどうでもいいことじゃないですか。私たち、犬にとっては。

チャコ そうよ、雑種のほうが体が丈夫だっていうしね。

ビート お気つかいありがとうございます。でも、その気遣いがときどき胸に突き刺さります。いろいろな意味で。

ジョン 血統の話はやめましょう。そんなこと気にしてたらキリがない。

チャコ そうよ、気にすることなんてないわ。ただし私は純血種だけ。

ジョン いま、その話はやめようって言ったばかりじゃないか。

チャコ ごめんなさい。でも私はフランス王ルイ16世に……。

ビート (突然泣き出して) やっぱいいいなあ、純血種は。でもね、雑種だって犬なんですよ。同じようにご主人様がいて、ドライフード食べて、しつけもされてるんですよ。チンチンだってやれと言われればするんです。

ジョン チンチン。気に食わねえなあ。俺はお手が精いっぱいだ。あとはやる気がしない。

ジョン マックスは？

ジョン マックスは？

ジョン こう這いつくばって、そのあとゴロつと転んでこんなふうにお腹見せてやるんだ。それでお腹をさされるのが大好きでね、私は。

ナナ はい、私、おすわりは得意です。

チャコ 私だって、おすわりくらいはできるわよ。

ビート おすわりができないなんて方、いるんですか？

マックス、 気まずそうに、 ゆっくり手を挙げる。

リリィ まあ、しつけはご主人様の責任だしねえ。

ナナ そうですよ、おすわりなんて教えてもらえれば簡単にできますから。

マックス 教えようとした。でも俺は気恥ずかしくってできなかった。主人は大事だが、奴隷になるつもりはねえ。

ジョン おすわり！

マックス以外、 全員、 おすわりする。

ジョン ゴローン！

マックス以外、 全員、 ころんと転がる。

ジョン チンチン！

ビートのみ、 チンチンのポーズ。

ジョン 従順だね。

ビート ずるいじゃないですか、僕だけ恥ずかしいポーズをさせるなんて。

チャコ ご主人さまに言われてる訳じゃないからね。

ナナ でもいいチンチンでしたよ。

リリイ うん、とってもいいチンチンだった。

ジョン 若い女の子が、そんなこと言っちゃだめだ！

マックス 何、怒ってんだよ、おっさん。

チャコ どうしたのよ、チンチンぐらいで怒っちゃってねえ。

ジョン だから、だめだって、言ってるだろう！

マックス さては、こんなところに閉じ込められて、気でもおかしくなってきたか。

ジョン ああ、おかしくなりそうだよ、本当に。

ビート でも、これだけ仲間がいると何だからうれしくなりますよ。

チャコ それ、本心で言ってる？

ビート もっと広い場所出会えたら、最高だったんだけど……。

ナナ これから、どうなるんですか、私たち。

リリイ なんだか、薄暗くて、気味の悪い場所よね。

ジョン ご主人が来てくれるのを待つしかないだろう、とりあえず。

キーンコーンカーンコーン、とチャイムの音が聞こえる。

ビート 何の音だろう？

リリイ 学校のチャイムと同じ。この音が聞こえて、しばらくすると、ご主人さまの子供

たちが帰って来るの。

ジョン 時間の合図か。

チャコ 格子の向こうの窓からかすかに陽の光。まだ夜まであるわ。

ジョン 私は少し昼寝でもしようかな。

マックス 俺もちよっと疲れたな。

ジョンとマックス、横に寝そべって眠る。

チャコ 気楽なもんよね、死ぬかもしれないっていうのに。

ビート 死ぬ!?

チャコ 何でもないわ。なんとなくそんな予感がしただけ。あたしもちよっと横になるわ。

チャコも横になって寝る。

ビート 死ぬってどういうことなんだ？

リリイ 深い意味はないでしょ。あたしたち、何も悪いことなんてしてないわけだし。

ナナ あの、どうして捕まったんですか？

ビート だからね、盲導犬のアランに会うために。
ナナ いえ、あなたではなくて。

リリイ あたしは、ご主人様に車から下ろされて、そのまま置いていかれちゃって。(ナナに) そういうあなたは？

ナナ 私を飼ってたおばあちゃんが病気になっちゃって……しばらく親戚に飼われてたんだけど、散歩の途中で首輪外されちゃって。

ビート ねえ、それって……。

リリイ おばあちゃんに早く会ったほうがいいよ。

ナナ でも、おばあちゃん病気だし……。

リリイ きつと迎えに来るよ。

ナナ うん……。

ビート なんか暇だね、おもちゃの一つぐらい置いてくればいいのに。

リリイ あたし、テニスボールが大好きなのよ。あれって、ポンポンはねて当たっても痛くないし、噛みやすいから最高でしょ。

ナナ わたしはハンカチが好き。ヒラヒラされると思わず噛みたくなっちゃうのよね。

ビート 僕は穴掘りが好きなんだ。とにかく掘る、掘る、掘る。それで、ご主人様のサンダルを入れて埋めるんだ。

リリイ・ナナ それっていたずらじゃん。

ビート でもさ、ご主人様がサンダルをあちこち、探し回ってる姿が楽しいんだ。僕の主人は何でもかんでも僕を叱るんだ。だからさ、ちよつとした仕返し。胸がスツとするよ。

リリイ 迎えに来ないんじゃないの、ご主人様。

ビート いや、たぶん大丈夫だ。たぶん迎えに来てくれる。

リリイ 同じトラックに乗ってたね、あたしたち3匹は。

ビート 歩いてた場所が近かったのもしれないね。

ナナ 本当に、ここ大丈夫なのかな？

ビート・リリイ ……。

ビート なるようにしかならない、としか言えないね。

リリイ・ナナ ……。

ビート まあ、悲観的になっても仕方がないわけだし、仲間も多いわけだし、楽しくやりましょう。楽しく。

リリイ・ナナ ……。

ビート そういう心境になれない状況は察するけどね、僕だってこれでも無理して笑ってるわけだから、ほらっ、君たちも笑って。

リリイ、ナナ、無理やり笑顔を作る。

ビート いざとなったときは僕がどうにかする。ここから出ればいいわけだ。それですべて解決だよ。

リリイ どこに帰るの？

ピート ご主人様の家に決まってるじゃないか。
リリィ 捨てられたのよ、私。

ピート ……。

ナナ (つぶやくように) 果報は寝て待て。

ピート 若いのに、ことわざなんて。

ナナ 使っちゃだめですか？

ピート いや、いい。いいね。そうだ、ことわざ遊びをしよう。ことわざで心に希望の風を吹かせようじゃないか。

ジョン、起き上がった、

ジョン うるさくって、全然、眠れないよ。

チャコ あたしも。

マックス 俺も。

ピート なんだあ、みんな聞こえてたんですね。どうですか、ことわざ遊びやりましょうよ。励ましましょう、みんなで。

チャコ くだらない。

マックス そんなのやっつけられるか。

ピート そんなこと言わずにー。ねっ、やりましょう。いろいろ考えてもしようがないわけだから、遊んで忘れましょ。

ジョン そうだな。何かほかのことを考えて、気を紛らわせたほうがいいかもしれないな。やった、一票獲得。

ピート ことわざで遊ぶってどうやって遊ぶんですか？

ナナ ご主人様が好きだった座右の銘の一つくらいはあるでしょう。それをヒントを出してもらいながら、最初に当てた人が正解っていうのはどうです？

リリィ なんだか、よくわからない。それって面白いわけ？

ピート 座右の銘から、お互いのご主人様がどんな人だったか、少しは想像がつくじゃないですか。

ナナ うーん……。

ジョン じゃあ、私からやっちゃおう。やってみてつまらなかったら、すぐにやめればいい。

チャコ こんなことしてて、大丈夫なの、私たち。

ジョン この檻の中じゃやることなんて何もないんだ。どうせなら楽しもうじゃないか。

ピート 賛成。

ジョン じゃあ、僕の主人の座右の銘から。

ピート よしっ、当てるぞ。

マックス 無理にテンション上げようとしてねえか、おいつ！
黙って。(ジョンに) よろしくお願いします。

ジョン ……武田信玄。

マックス わかった。それなら、俺、知ってる。

ビート どうぞ。

マックス 人は城、人は石垣、人は堀。情けは味方。仇は敵なり。

ジョン よく知ってるじゃないか。うちの主人は実はことわざが大好きでね、座右の銘をいくつも持つてる。

ビート 次は僕が当てますよ。

ジョン ……徳川家康。

チャコ 人の一生は、重荷を負うて遠き道を行くがごとし。

ジョン 正解。犬のくせによく知ってるじゃないか。

チャコ あなただっけと同じ犬でしょ。

ジョン 次は少し、難しい。

一同 ……。

ジョン 孫子。

ビート あなたの御主人は相当な歴史好きだ。

ジョン そうなんだ。時代小説がずらりと書齋に並んでるんだ。

リリィ 私、全然わからない。

ジョン 彼（か）を知り、己を知れば……。

マックス 百戦危うからず。

ビート なんだ、マックス、けっこうやるじゃないか。

マックス 俺の主人は歴史小説が好きなんだよ！

リリィ どういう意味なの、それ。

ジョン まあ、要するに、敵と味方の情勢をよく知っていれば戦いには負けないという意味だ。

リリィ （関心なきように）ふーん。

ビート じゃあ、今度は僕が問題を出しましょう。

ジョン どうぞ。

ビート シェイクスピア。

一同 ……。

チャコ 夏の夜の夢。

ビート チャコさん、それは、シェイクスピアが書いた作品の名前ですよ。ことわざ、ことわざ。

ジョン 目には目を。齒には齒を。

ビート それは、ハムラビ法典。

ナナ 裸の王様。

ビート 確かにハムラビは、バビロニアの王様だけど、ことわざとは何の関係もない。

リリィ 降参。早く答え言って。

ビート 「生きるべきか、死ぬべきか、それが問題だ」。

チャコ それってことわざじゃないんじゃないの？

ジョン 舞台のセリフっほいぞ、なんだか。

でも、うちの主人は、よくつぶやいてたよ。生きるべきか、死ぬべきかって……。わかった、君の飼い主は相当、心を病んでる。ストレス社会の象徴のような人間

チャコ　だ。そのストレスを僕らに向けるのはやめてもらいたいもんだ。

ジョン　ジョン、あんた、虐待でもされてたわけ？

昔は心優しい主人だったんだけどね、ここ数年でガラリと性格が変わってしまった。事業がうまくいってなかったんだ。

ビート　じゃあ、次の問題に行きましょう。

マックス　あんたのはことわざじゃないから、もうやめだ。

チャコ　(さっぱりと) 少しは遊べたわ、ありがとう。

ビート　次はちゃんとしたことわざですから！

ジョン　またどうせ、シェイクスピアのセリフだろう。

ビート　おお、ロミオ、ロミオ、どうしてあなたはロミオなの！

マックス　セリフだよ。

ジョン　君のご主人は、舞台俳優か、何かだね、きつと。

ビート　正解。どうしてわかったんですか？

ジョン　君が言ってるのは、ことわざじゃなくて、セリフだから。

ビート　参ったな、僕からやろうって言い始めたのに。

チャコ　(適当に) なかなか遊べたわよ。

ナナ　…石の上にも三年。

リリィ　どういう意味？

ナナ　辛くても、耐えていれば、やがて報われる……。

マックス　ご主人の座右の銘か。

ナナ　はい、私のご主人様の。

マックス　報われるといいなあ、俺たちも。

ビート　三年もこんなところで飼い主を待つのかい？

マックス　こんなところに三年もいるのは無理だ。第一、散歩に連れて行ってくれる気配もないじゃないか。

ビート　そうだよ、これじゃあ、マーキングもできやしない。

ジョン　小便は我慢してくれよ。ここでみんなやり始めたら、汚くなってしょうがないから。

ビート　生理現象をやめろと言われても困るなあ。

ジョン　原則、禁止だ。大便も小便も、暗転中に頼む。

一同　え〜！

ジョン　明りがつくまでに、係員が片付けてくれるはずだ。

マックス　我慢するなんて無理だ。

ジョン　無理でも頑張れ。うんことしよんべんに囲まれたくはない。

チャコ　どうやら、このボスは、

マックス　ジョンになりそうだな。

ジョン　(微笑しながら) いや、ボスだなんてちょっと待っててくれよ。

チャコ　とか、なんとか言いながら嬉しそうだけど。

ジョン　そりゃあ、私たちの世界は縦社会だからね、ボスと言われて嬉しくなくもないんだけど、なんだか恥ずかしいっていうか、そういうタイプじゃないだよなあ、僕

は。

ボス！

リリイ いや、なんだか照れるなあ。

マックス そんなに嫌なら、俺がなつてもいいんだぜ。

ジョン (真顔で) それは嫌だ。君から上から目線で見られたくない。第一、若すぎるつてもんだ。

ビート よつ、チームリーダー！

ナナ キャプテン！

リリイ 大統領！

ジョン いやあ、照れるなあ……。

チャコ 暫定トップよ。あくまでも暫定。

ジョン まあ、ここにいつまでもいるわけにもいかないから暫定のほうがいいでしょう。

それでは代表就任挨拶を。

マックス ノリノリじゃねえか。

ジョン、喉の調子を整えて、

ジョン えー、それでは僭越ではございますが、代表として、私たちのこれからの行く末と方針について……。

マックス 早くしろ！

ジョン まず、私たちの目標は、この格子と壁に囲まれた檻から出ること。

一同 うん！

ジョン でも、無理そうだから、あきらめること！

一同 えー！

ジョン 大事なのは、これが現実なんだ、とあきらめることだ。これは夢じゃない。僕たちはいまは囚われの身だ。自由に外に出ることもできない。この先、何が起るかもわからない。ただ、待つしかない、以上。

合ってるけど、それだけじゃあ、夢も希望もないなあ。

ジョン 夢や希望なんて持てる場所じゃないんだ、ここは。でも唯一、救いがあるとすればご主人様がやってきて、ここから出してくれると祈り、願うことだけだ。

捨てられたかもしれないのよ。

ジョン 僕たちの気持ちコロコロと変わるように人間の心も変わる。捨てても迎えに来てくれると信じよう。

チャコ 迎えに来なかつたら……。

ジョン そのときは、ここから出してくれるでしょ。

チャコ そんな保障どこにあるの？

ジョン チャコ、心配したってキリがないよ。考えない、それが一番だ。なぜなら考えてもどうにもならないからだ。

ナナ あきらめも肝心……。

ジョン そう、若いのに、悟るのが早いなあ。あきらめよう、そして楽しく生きて行こう。

リリィ　なんだか不安。みんなそんな簡単にあきらめられるの？
ジョン　…僕たちは所詮、犬だ。主人がいなければ、こうして知らない人間に無理やり

閉じ込められる。何とも無力だ。

チャコ　次に生まれ変わるときは、人間がいい。ねえ、そう思わない？

ビート　僕は犬のままがいいなあ。

ナナ　私も犬かな…。

マックス　俺は人間がいい。いつ外に出かけようが、自由だ。

ジョン　人間はうらやましいなあ、自由で。

リリィ　なんで私たちは自由になれないんだろう？

ビート　そういう運命なのさ、きつと。

チャコ　運命って一言で片づけられても納得いかないわよねえ。

扉が開く。

レオが現れる。

レオ、ジョンたちに一礼したあと、檻を見回す。

ジョン　あれっ？

レオ　まさか、こんなところで君に会うとは思わなかったな。

ジョン　レオじゃないか。こんなところで何やってるんだ？

レオ　そういう君こそ何やってるんだ。主人に捨てられたのか？　情けないやつめ。

ジョン　そういうあんただって、どうしてここへ？

レオ　知らんよ。

ジョン　知らんつて。

レオ　話したくない。ただそれだけだ。

レオ、周囲にいる犬たちを見る。

チャコ、レオの視線を感じて、

チャコ　お尻の匂いを嗅がれるのは嫌なの。

レオ　私もあんまり好きじゃないんだ、あの挨拶は。

チャコ　あら、それなら、きつと気が合うわ。

レオ　君たちは、ここに連れて来られた意味をわかっているのか？

マックス　どういうことだ、おっさん。

レオ　まあ、いい。言っただうなる、ということでもない。

リリィ　ねえ、ここはどこ？　あたしたちはどうなるの？　何か知ってるの？

レオ　まだ、若いのに不憫だな。

ナナ　あの、何か知ってたら教えてください。

レオ　…。

ジョン　レオ、あんたと私の仲じゃないか。平和塔公園で、あんたはよく私の遊び相手をしてくれた。

レオ ジョン、君はどうして、ここへ運ばれたんだ？

ジョン ……。

レオ なぜ、黙る？

ジョン 捨てられた……。

レオ 私は君の主人を知っている。ずいぶん、君のことを可愛がっていたじゃないか。仕事が出来なくなったらしい。うちの主人は会社の倒産という災難に遭遇した。

レオ それで捨てられたのか？

ジョン 理由はわからないが、山の中でキャリーから出された。こんなことは一度もなかった。

レオ 私の主人は大病を患っていてね、前にも一度、私を捨てたことがあった。今度は

二度目だ。

ジョン それは初耳だよ。

レオ 主人に捨てられたことがある、なんて言いたくないもんだ。

ビート (レオに) そうすると、あなたはここから一度、出たということだ。

レオ そうだ、主人が心変わりをして七日目に私を迎えに来た。

チャコ 自分で捨てておいて、引き取りに来る飼い主もいるのね。

レオ 無理して引き取りに来たんだ。でも、数年してやっぱり私を飼えなくなった。

ジョン 最近、会わないなあ、と思っていたよ。

レオ 主人の体調が悪くて、私を散歩に連れていく余裕がなかったんだ。

ナナ ああ、私の主人のおばあちゃんも病氣なんですけど……。

レオ ……。

ビート 以前、ここに来たことがある、ということはそのときにも、このように同じ境遇の仲間が？

レオ いたよ。私他に3匹ほどね。

ビート その3匹は、どうになりました？

レオ ……。

マックス どうして黙る？

リリイ 死んだんだ、死んだんだ、きつと……。

ビート 殺されるのか、俺たちは……。

ジョン レオ、どうなんだ？

レオ 大丈夫。そんな簡単に殺されるわけじゃないじゃないか。私たちは生きてるんだよ。

死ぬことなんてあるわけじゃないか。

レオ そうだ、その通りだ。死ななきゃいけない理由が僕たちにはない。

リリイ ああ、なんだかほつとした。

ナナ 殺されるんじゃないかと思った。本当に。

マックス ……。

レオ まあ、落ち着いて。でも、飼い主が迎えに来るか新しい飼い主が見つかるまで、

ここで過ごす覚悟は必要だよ。

リリイ ええ。ずっとここで？

ビート 散歩はどうなるんだ、散歩は？

ナナ ああ、なんだかイライラしてきちゃった、私。

ナナ、穴を掘るしぐさをする。

チャコ ここで、ずっとねえ……。

マックス 一緒にいたあとの三匹はどうなったんだ？

レオ 新しい飼い主に引き取られていったよ。

マックス 三匹とも？

レオ ああ、そうだ。

マックス (レオに詰め寄って) 信じられねえ。

レオ 私は本当のことを言ってるだけだよ。

マックス 簡単には信用できないな。

ジョン レオがそう言ってるんだ。レオの言うことを信じようじゃないか。

マックス とてもじゃないが、全員助かるとは思えない。

ジョン じたばたしたってしょうがない。希望を持たなきゃ、私たちは生きていけないよ。

レオみたい飼い主が迎えに来ることもあるわけだから。

レオ ……。

チャコ そうね、きっと大丈夫だわ。

レオ 大丈夫だ、大丈夫。

レオ、額の汗を拭く。

マックス 冷や汗でも掻いたか？

レオ いや、私はシユナウザーだ。短毛の君より、汗を掻く。

マックス それだけだったら、いいけどな。

ジョン マックス、レオをあんまり責めるのはやめてくれないか。

チャコ そうね、レオも私たちと同じ境遇なわけだし……。

マックス お気楽なもんだな、このおっさんの表情は、尋常じゃないぜ。毛が多くてよく見

えないが、顔は真っ青って予感がするぜ。

レオ ……。

マックス どうして黙ってる？

レオ 少し疲れた。休ませてもらえないか？

マックス おう、好きにしてくれ。休む場所なら、いくらでもある。

レオ、壁際に行き、横になる。

ジョン、さりげなくレオの横に座る。

ジョン レオ、僕だけに話して。

レオ 何だ？

ジョン これからどうなる？

レオ 聞いて、得することはない。
ジョン その七日後に、あんたは何を見た？
レオ 言いたくないと言ってるんだ。
ジョン 知りたいんだ。何も知らずにいることも不安だ。
レオ ……
ジョン 人間だって、最近のはつきり、余命の告知を医者ができるそうじゃないか。私たちは犬で馬鹿かもしれないが、この先に何が待っているのかは、何だか想像がつく。
レオ だったら、その想像通りだと言っておくよ。
ジョン 俺たちは、殺されるのか？
レオ 七日は平気だ。七日目までは待ってくれる。
ジョン 八日目？
レオ 七日目より、先の道は、私たちにはない。
ジョン ありがとう。よく教えてくれた。
レオ でも、みんなには内緒に。知らないほうがいい。
ジョン わかってるさ。
レオ ジョン、幸運を祈るよ。
ジョン レオ、あんたも絶望するなよ。
レオ 今度は迎えに来ることはない。仕方がないことなんだ。
ジョン 最後まで希望を捨てないで。

ジョン、レオの肩を叩く。

マックス 何の話だ、ひそひそと。
ジョン こっちの話だ。気にするな。
マックス 耳はいいんだぞ、俺たちは。
ジョン テレパシーで話したんだ。聞こえるわけがない。
チャコ 何の話かしら？
ジョン 別に聞かれちゃまずいことじゃない。
マックス だったら、いま、何をレオと話してたのか、俺たちにも聞かせてくれよ。
ジョン あれの話だよ、あれ？
リリイ あれって、何？ あれって。
ジョン レオ、あんたから言ってくれ。あれの話を。
レオ だから、あれの話。(小指を立てて) こっちの話。
リリイ 最悪。
マックス そういうこと話してる場合じゃねえだろうがよ。
チャコ 不謹慎だわ。
レオ でも、私はもう老犬だから。遊びだから。ちょっとした大人の火遊び。
ナナ 遊びで女性をもて遊ぶなんて失礼ですよ。
リリイ 当たり前よ。こっちは本気なんだから、遊びはだめ！
マックス あぎれるぜ、まったく。

ジョン そんなこと言っつて、マックス、お前が一番、女を泣かせてそうだぞ。
レオ そうだ、私を攻める前に、今まで自分がやってきたことを省（かえり）みてみる
ことだ。

マックス ……。
女を泣かせてきたのね！

マックス いや、俺はいたって真面目だ。遊びで恋はしない。全部本気だった。
ナナ 全部？

マックス 全部だ。
ジョン 二匹、三匹、同時にね。

リリイ 信じらんない！
マックス いや、俺はまだ、二股をかけたとは言っつてない。

ナナ やっぱり、あるんだ。ナナ、ちよつと悲しいです。
マックス ……。

ジョン マックス、その無言がすべての答えだ！
マックス ふざけんな、ばかやろー！

マックスに追いかけて、逃げ回るジョン。

ジョン 楽しもうじゃないか、ここは何もない場所だ。
一同 ……。

シヨコラとエルビスが開いた扉から、現れる。

エルビス なるほどね……。

シヨコラ あらっ、お仲間がいつぱい。

レオ、ジョンに耳打ちする。

レオ ジョン、わかってるな。

ジョン わかってるよ。でも、なんだかやっぱり聞かなきゃよかったなって少し思うよ。

レオとジョン、素早く離れる。

ジョン （無理やり元気に）いやあ、ようこそ。この犬の楽園、パラダイスランドの代表
をしておりますジョンと申します。

エルビス （冷めた口調で）ご丁寧な挨拶どうも
シヨコラ よろしくお願ひします。

ジョン いやあ、あなたがたは運がいい。ここにいる仲間たちは心優しく、楽しい連中ばかりです。順に紹介しましょう。まずは嘔み癖のビーグル犬、マックス！

マックス、舞台前に出て来て、かっこつけたポーズ。

ジョン 次は、中年トイプードル、チャコ婦人

チャコ (上品なポーズを取りながら) だから、未婚だって！

ジョン お次は、おちゃめなコーギー犬、リリイ！

リリイ、西洋の貴婦人の挨拶。

ジョン

そして、このパラダイスランドの生き字引(じびぎ)、ミニチュアシュナイザーの

レオ！

レオ、控え目にお辞儀をする程度。

ジョン

そしてクライマックスは、このパラダイスランドのピチピチアイドル、チワワの
ナナ！

ナナ、軽くポーズを取って、ウィンク。

ジョン

そして、ラストはわたくし、パラダイスランドの支配人、ミニチュアピンシャー
のジョン！

ジョン、胸に片腕をかけて、西洋の紳士の挨拶。

ビート、ジョンに必死にアピールする。

ジョン

忘れてました、もう一匹。駒のようにくるくる回るコリー犬、中年元気のビート！

ビート、その場でくるくると回って、倒れる。

ジョン

以上、パラダイスランドの挨拶ショーでした！

チャコ (ジョンに) テンションがずいぶん高いわね。

ジョン いいじゃないか。支配人として、一生懸命やってるんだから。

ビート いつの間にか、支配人になっちゃいましたね。

ジョン 一応、ボスだからね、代表より支配人というほうがしっくりくる。

リリイ ここがパラダイスランドとは思えないけど。

ジョン 僕たちみんなでパラダイスランドにしていこうじゃないか。

レオ ジョン、そろそろ、新入りの方たちにも自己紹介してもらおうじゃないか。

エルビス、進み出て、

エルビス

(冷めた感じで) ダルメシアンのエルビスです。よろしく。

シヨコラ (笑顔で) マルチーズのシヨコラです。よろしくお願いします。

チャイムの音が聞こえる。

夕方の照明が変わる。

レオ (エルビスとシヨコラに) きつと、君たちで最後だろう。もうすぐ夜になる。マックス こんなところに俺たちを閉じ込めやがって、いったい何を考えてるんだ？

エルビス 俺は望んでここへ来た。主人に愛想が尽きてね、逃げてきたんだ。

ナナ 望んで？

エルビス 主人がいる場所より、このほうがいい。

一同 ……。

シヨコラ あの、みなさんはどんな理由でここに？

チャコ (シヨコラに) そういうあんたはどんな理由？

シヨコラ うーん、外に出てみたかった、というか、一度くらい自由に行きたいところに行きたいなあ、と思って。

リリイ 家出しちゃったんだ？

シヨコラ そんなつもりはなかったのよ。ご主人様はいい人だし、食事はペディグリーチャムだし。でも、走っているうちに、どこにいるのかわからなくなっちゃって。

チャコ 嫌味ね、ペディグリーチャムだなんて。リッチな生活してたってわけね。

シヨコラ いえ、私は別にそんなつもりで言ったわけじゃ……。

チャコ じゃあ、どんなつもりだったのよ！

マックス 熱くなるなよ、おぼさん。

チャコ (シヨコラを見て) おぼさんってねえ、この人だって、大して私と変わらないでしょ。

一同 ……。

チャコ 悪かったわね、年増のおぼさんで！

ビート まあ、新しい方たちも来たわけだし、みんなで仲良くやりましょうよ。

シヨン そうだね、最後の日まで。

マックス 最後の日？

シヨン みんなが、ここから出られる日まで仲良くやろうって意味だよ。

レオ、ほっとした表情。

シヨン そうだ、新しい仲間も入ってきたことだし、歓迎会を開きましょう！
マックス 歓迎会ー？

リリイ さっきの挨拶じゃだめなわけ？

シヨン 盛り上がるゲームがいい。いろんなこと忘れて夢中になれる遊び！

ビート ことわざ遊びはやっちゃったしなあ……。

エルビス いいですよ、遊びなんて。子供じゃあるまいし。

シヨン まあ、そう言わずに。なんかかないかなあ、レオ。

レオ 私に聞かれても……。
チャコ もう遊びはいいんじゃないの？
ジョン そう言わずにさあ、なんかやりましょうよ！
マックス やけに必死だな、おっさん。
ジョン おっさんじゃなくて、僕はジョンだ。
ナナ そしたら、しりとりなんてどうですか？
シヨコラ しりとり？
ナナ 普通のしりとりじゃつまらないから、犬に関係するものでしりとりしましょ。
ビート けっこう難しそうだなあ。
ジョン 暇つぶしだよ、暇つぶし。
シヨコラ そしたら、最初、誰から行きます？
ジョン 私、私から行こう。
チャコ 最初が一番楽よね。
ジョン いいじゃないか。どうせ、僕の順番も回ってくるわけだから。
シヨコラ どの順番で行きます？
ジョン よしっ、円になって、時計回りに行こう。
エルビス 俺は遠慮させてもらおうよ。
ジョン (エルビスを促して) まあ、そう言わずに。

ジョンを中心に、円を描くように右側にナナ、その隣にエルビス、ビート、マックス、リリイ、チャコ、レオ、シヨコラの順で円状に立つ。

ジョン それじゃあ、犬に関する用語ね、僕から行くよ。
一同 ……。
ジョン ケージ。
ナナ ……ジャックラッセルテリア。
エルビス アレルギー。
ナナ 犬アレルギーかあ。私を預かったおじちゃんがそうなのよね。
シヨコラ だから、捨てられたんじゃないの。
エルビス アレルギーだから、イだね。
ビート イ、イ、イリオモテヤマネコ。
シヨコラ 犬じゃない。
マックス おもいつき猫じゃないか。犬しりとりだろ。
ビート ちょっと待って。すぐ考えるから。イ、イ、イヌ。
マックス イヌって、そのまんまだな。
ビート いいじゃないか、しりとりなんだから。はい、イヌだから、ヌ。
マックス ヌ、ヌ、ヌイグルミ。
シヨコラ 犬じゃない。
マックス 犬のぬいぐるみってよくあるだろ。セーフだ、セーフ。
ジョン どうする、ナナちゃん？

ナナ 続けたいんでセーフで。
ジョン スイグルミだから、ミだ。
リリイ ミニチュアダックスフンド。
チャコ ドッグ。
マックス そのままじゃねえか。
チャコ ほんとしたら、ぬいぐるみはアウトよ。ドだからドッグよ。何の問題もないわよ。

レオ グかあ、グ、グ、グーチョコキパーのグー！
一同 ……。

レオ すまん、真面目に考えるよ。グ、グ、グレイハウンド。これなら文句ないだろう。
シヨコラ ドでしょ。ド、ド、ドミニカ共和国。

マックス どういう感性してるんだ、あんたは。犬と全然関係ねえし。

シヨコラ だって、ドッグってもう一回言ったら、おしまいでしょ。他に浮かばないんだものー。

エルビス ドッグフードとか……。

シヨコラ それもらいます。ドッグフード。

ジョン また、ドじゃないか。おしまいだ、おしまい。ドッグでおしまい。

ナナ はい、終わりでーす！

レオ えっ、もう終わりかあ。

ナナ ちよつとは楽しめたでしょ。

チャコ ちよつとね、ちよつと。

エルビス こんなことするために、僕は主人のところから逃げて来たんじゃないのに。

ジョン まあ、そういうなよ。ナナちゃんがせつかく思いついた遊びなんだから。はい、

みんなでナナちゃんにお礼。

一同 ワン！

暗転

4日目。朝。

チャイムの音が響く。

レオ 今日で、4日目だな。

マックス ここに連れて来られてから、4日目の朝だ。

ジョン 退屈だな。

ビット 遊びももう、やりつくしちゃいましたしねえ。

リリイ 早くここから出たいー！

チャコ ここで、じっとしてるのも、辛くなってきたわね。

ナナ おばあちゃん、迎えに来てくれないのかな……。

ビット きっと、今頃、探しているさ。

マックス 俺の主人も現れない。

シヨコラ 私も。

ビート このまま、誰も迎えに来なかったら、どうなるんだろう？

一同 ……。

マックス なあ、おっさん。

ジョン・ビート・レオ 何？

マックス ジョンに言ってるんだよ。

ジョン 俺にはジョンという名前があるって言ってるだろ。

マックス おっさんでも、ジョンでも何でもいいんだ。そろそろ、俺たちがいつどうなるのか、教えてくれないか？

ジョン そんなこと私知ってるわけじゃないじゃないか。

マックス ここに連れて来られた日に、レオと何か話してただろ。

ジョン だから、あれは、確か……。

レオ (小指を立てて) こっちの話。

ジョン (小指を立てて) そう、こっちの話。

マックス 冗談で聞いているわけじゃねえんだよ。もう四日目だ。そろそろ話してくれてもいいだろ。俺たちはどうなる？

ジョン どうにもなりはしないよ。

エルビス ずっとここにいるとも思えないな。

シヨコラ 何？ 何の話？

チャコ あたしたちの将来の話。きつと遠くない未来。

ジョン ……。

マックス レオ、あんたも知ってるんだろ。二匹だけ知ってるなんて、卑怯じゃないか。

ビート あのー、なんか殺伐としてきたし、体操でもしましょうか。昨日やったワンワンストレッチ。

マックス 遊びはもういい。

ビート 遊びじゃない。あれは体操だよ。心をほぐすための体の運動さ。健全な精神は健全な肉体に宿る、と言うじゃないか。

マックス あんたは、この先、俺たちがどうなるのか、知りたくないのか？

ビート ……それは気になる。知りたい。でもきつと知らないほうがいい。

エルビス 何をそんなに恐れてるんだ？

ビート エルビス、君は恐くないのか？

エルビス 恐くないさ。俺のご主人様は、気に食わないことがあると、よく僕を叩くんだ。

レオ ご主人様のほうがよっぽど怖い。

レオ 死にやしない。大丈夫だ。私たちが大丈夫だ。

マックス 死にやしない？

レオ ……。

マックス レオ、あんた、ここに来るのは二度目だって、言ってたよなあ。

レオ そうだ、私が入るの二度目だ。

マックス あんたはそのとき、七日目に飼い主を迎えに来た。他の仲間新しい飼い主に引き取られたと言ってけど、それは嘘だろ。

レオ 嘘じゃない。
マックス 天国に行った仲間を忘れない、なんてかますんだろう？
ジョン (微笑して) どうしたんだ、マックス。今日はやけに熱いじゃないか。
マックス もう四日目だ。そろそろ現実から目をそらすのはやめようぜ。
ジョン ……。
マックス なあ、レオ。俺たちは七日目を迎えたあとどうなる？

レオ、頭を掻き、何か考え事をしながら、うろろうとしたあと、

レオ ……移動する。
マックス どこに？

レオ NPO法人の施設に、だ。

マックス NPO法人？

レオ 動物愛護の非営利団体だ。犬のためのボランティア団体。

マックス そこに俺たちは移されるのか？

レオ そうだ。

マックス そこに引き取られて、どうなる？

レオ 里親探しが始まる。

マックス 里親？

エルビス 僕は生れてすぐに、この施設に引き取られたんだ。だから、いまの主人は二人目の飼い主だ。

ビート そのNPO法人っていうのは、必ず俺たちを引き取ってくれるのか？

エルビス 引き取られた僕がここにいるんだ、間違いない。

レオ 飼い主が来なくても助かる。そういうわけだ。

シヨコラ 良かったあ。こんなことなら、早く聞いておけばよかった。もしかしたら、殺されるんじゃないかなあって思ってたの。人間って、本当に勝手な生き物だから。

リリィ 私も。内心、びくびくしてた。殺されるんじゃないかって。

ナナ (笑って) よかった、助かる！

シヨコラ (笑って) 助かる！

レオ、ほっとした表情。

チャコ 甘いわね、あたしは、そんな話、信用できない。

ジョン 実際、助かっているエルビスがここにいるじゃないか。

チャコ ねえ、エルビス、あんたが前に一度、ここに連れられてきたとき、他にも仲間はいたの？

エルビス いや、子犬だったし、そのときは俺だけだった。

チャコ ほら。子犬だから、助けてくれたのよ。

エルビス そんなことはない。いや、助けてくれなきゃ俺が抜け出して来た意味がない。

チャコ 下手したら、命がないかもしれないわよ、あんた。

エルビス 冗談だろ。俺はいまの里親が嫌になって、逃げ出して来たんだ。死にたくて出てきたわけじゃない。

チャコ なんとなく思っただけよ。気にしないで。

エルビス みんなが不安になるようなことを言ってほしくないね。

チャコ 私は現実を見据えようとしているだけよ。

エルビス 大丈夫。そう思っていれば、きっと大丈夫だ。

レオ ああ、そうだ。みんな大丈夫だ。

ジョン、急にもぞもぞと動き出して、

ジョン うわっ、ちょっともおおしてきた。レオ、ちょっと俺の壁になってくれ。みんなにこんな姿を見られたくない。

ジョン、レオを檻の端のほうに引っ張っていく。

ジョン レオ。

レオ 何だ？

ジョン 里親の話は本当か？

レオ 半分合ってるが、半分は嘘だ。

ジョン 何が嘘なんだ？

レオ 助かる時もあるだけだ。

ジョン 全員じゃないってことか。

レオ、小さく頷く。

ジョン テレパシー終了。

レオ、ジョンを突き飛ばして、

レオ ジョン、話が違わないか。用は足さないように我慢するんじゃないのか？

ジョン 話が違うのは、そっちのほうじゃないか。

レオ 私は何も間違ったことは言っていない。

ジョン 確かに、ここで用を足すと、檻の中が汚れる。よしっ、我慢しよう。

マックス 何、話してたんだ、二匹でひそひそと。

レオ 用を足すなら、一匹でしろ、と言ってたんだ。

ジョン あんたが、早くしろ、というから、逆に緊張してできなかった。

レオ だいたい、連れジョンなんてしないで、犬は。

ジョン それを言ったら、おしまいだろ、レオ。

ビット 小便は禁止だって言ったのは、ジョン、あなたですよ。

リリィ そうよ。他の仲間にはだめって言うっておいて、自分はいいいわけ？

ジョン　忘れちゃいけないよ。ここのボスは僕なんだから。
ビート　だったら、なおさらルールは守ってもらわないと。
ジョン　いいじゃないか、やめたんだから。
ナナ　反省してください。
ジョン　わかったよ、すまなかった。次から気をつける。

コツコツコツと足音が聞こえる。

足音に耳を澄ます犬たち。

全員、緊張した面持ち。

足音が止まる。

ビート　誰だ、こっちを見てるぞ。
チャコ　あたしのご主人様じゃないわね。
ナナ　私も違う。
リリイ　私も。

しばらく前をみつめ続ける犬たち。

ジョン　おいっ、誰かの飼い主じゃないのか？
レオ　違うな。
マックス　見たことがない人間だ。
エルビス　俺も知らない。
シヨコラ　私のご主人様じゃない。
ジョン　誰だろ？
リリイ　あっ！

檻の前から、コツコツと足音が遠のいていく。

ジョン　誰の飼い主でもないのか？
一同　……。
ジョン　まあ、気長く待とう。時間はまだある。
マックス　ああ、もう面倒くせえ。みんなどう思ってたんだよ。本気で全員助かると思ってるのか？　思っていないだろ。ごまかすのはやめようぜ。
ジョン　ごまかすって何だい？
マックス　希望を持つとうとするために必死だ。全員なんて助かるわけないだろ。むしろ全員殺される気がするよ、俺は。
エルビス　だから、それはNPO法人がさあ……。
マックス　（エルビスに）あんたは馬鹿だろ。たまたま助かった昔話を俺たちにするな。あんたも死ぬぞ。
エルビス　死なないさ。どうして僕が死ななくちゃいけないんだ？

マックス ここに入れられた時、どう思った？ 前とは違うつて思っただろ。一匹じゃない。あんたも入れて9匹だ。ここにはたくさんさんの犬がいるんだ。

エルビス ……。

マックス はつきり言う。全員は助からない。俺たちはきつと殺される。

リリイ なんて殺されなきゃいけないのよ。

マックス 全員を助ける余裕が人間にあるとは思えない。一匹でさえ、まともに飼えずに捨てる人間がいるのに、これだけの犬をどこの誰が飼うんだ？

レオ マックス、少し落ち着くん。希望はあるんだ。最後まで頑張ろうじゃないか。

マックス やっぱあんた何か知ってるんだろ。もうはぐらかしはたくさんだ。本当のことを俺たちに教えろ！

ジョン 今日は雨が降りそうだなあ。鼻がムズムズする。

マックス だから、そうやって、とぼけんよ！

ジョン 君はいいよなあ。自分で逃げてきた。君のご主人は君を探し回っていてここに現れるかもしれない。でも、私みたいに置き去りにされた犬はどうなるんだ。微かな希望に胸を膨らませなきゃ、絶望で息ができなくなるじゃないか。

チャコ いったい、私たちに何が起こるの？

レオ 聞かないほうがいい。

チャコ 聞かせて。

レオ 聞かないほうがいいんだ！

シヨコラ 聞かせてください、本当のこと。

レオ まだ、時間はある。

マックス いつまであるんだ、俺たちの時間は？

レオ ……。

ジョン 知らないほうがいい。そのときはいつかやってきて、きつとあつという間に終わる。そのほうがいい。

ビート 卑怯だな。同じ檻に入れられた仲間だつていうのに、一番大事なことは僕たちに話さず秘密しておくのか？

ジョン そのほうがみんなのためだと言ってるんだ！

チャコ みんなのためじゃない。自分のため。みんなに話したら、それが現実になつてしまつて。あなたは、ただ自分が恐いだけ。

ジョン ……この四日間は地獄だ。知らないほうがいいこともある。

ビート ジョン、教えてくれ。あなただけが苦しむことはない。

ジョン 私は、仲間が苦しむようなことを話したくはない。

マックス 青臭いこと言ってるじゃねえ。俺は、現実を受け入れる覚悟はできてるんだ。

レオ みんなはどうなんだ？ 聞きたくない者もいるんじゃないか？

一同 ……。

リリイ 恐いけど、現実を知りたい。だって、そこからは逃げられないから。

シヨコラ 私も。

ナナ あたしも。

エルビス ……聞こうじゃないか。

ビート 僕にも聞かせてくれ、ジョン。

ジョン 私が嫌なんだよ。みんなに話せば、それは現実味を帯びてくる。もっと間近に死が迫ってくる。

シヨコラ やっぱり、死ぬのね、あたしたち。

ジョン ……。

レオ 期間は七日。八日目の朝は私たちにはない。そういうことだ。

ジョン 今日はもう、四日目だ……。

マックス やっぱり、そういうことか……。

レオ 言わなくてすまなかった。みんなのためだと思ったんだ。

チャコ 昔、一緒に入ったお仲間は？

レオ 一匹はNPO法人に引き取られた。あとの仲間は……。

リリイ ……そんな、嫌よ。私、死ぬのは嫌。

ビート みんなそうですよ。死にたい奴なんていないさ。

シヨコラ ご主人様が迎えに来てくれる、きつと。

レオ そうだ、まだ三日ある。きつと誰かは助かる。

エルビス 死ぬ？ まさか、そんな。

マックス 人間は自分勝手だ。俺だって助かるかわからない。

ナナ (祈るように) おぼあちゃん、私を助けて。

ビート どうしてこんなことになるんだ。僕は友人のアランに会いたかっただけなのに。

マックス 運が悪かったな。俺もあんたも。

ジョン 慌てるな。まだ、希望はあるんだ。それを信じよう。

チャコ 残念ながら、あたしはその希望もないわ。

ジョン チャコ、卑屈になったらだめだろう。

チャコ ジョン、あたしはね、病気を持つてるの。白内障。あたしが捨てられる直前に新

しい若いトイプードルが来たのよ。もう元氣一杯で、若くて、病気もなくてね。

あたし、必要なくなっちゃったみたい。

チャコ……。

ジョン ひどいな、人間は。必要がなくなれば、命ある僕らを簡単に捨てるのか？

レオ この国では、年間5万頭以上の犬や猫が処分されているそうだ。

リリイ 人間は自分勝手。ずるい。ひどい。許せない。

レオ だが、人間にも事情がある場合がある。私の主人は半身不随でね、車椅子の生活

になってしまった。一度は迎えに来てくれたが、今度ばかりは、やむ終えず私の

首輪を外したんだろう。

ジョン レオ、あんた……。

レオ 家には戻らなかったよ。病気を患っている主人に、老犬の世話は無理だ。

マックス 忠犬ハチ公は、あんただよ。

ビート 主人のために死を選ぶ、なぜ？ 僕らは生きてるんだぞ。死ぬ理由もない。ただ

の人間の都合に流されていいのか？

レオ どうにもならないこともあるんだよ。

ビート 僕は納得できない。(レオに) あなたは生きるべきだ。主人に忠実に仕えてきたん

レオ ……。でしょ。最後の奉仕が、死を選ぶこと、そんなのはおかしい。納得できない。

リリィ ねえ、みんなここから出ようよ。私たちが殺されるなんておかしいよ。理由がないもの。

ジョン 出れるものなら、とつづくに出てるよ。でもここは、格子と壁に囲まれた檻の中だ。逃げようがない。

ナナ 私はここで死ぬの？ ここで最後？ まだまだやりたいことがたくさんある。

シヨコラ ナナ、大丈夫、あなたはきつと助かる。

ナナ でも、そんなことわかんないじゃん。

シヨコラ 大丈夫。絶対に大丈夫だから。

ナナ シヨコラ……。

ナナ、シヨコラに抱きつく。

マックス 逃げようぜ、ここから。このまま死なんて文字通りで面白くないぜ。

ジョン どうやって？

マックス それをこれから、みんなで考えるんだよ。9匹もいるんだ。一匹くらいいい知恵

が浮かぶかもしれない。

エルビス そうだ。きつとここから出られる方法がある。

ビート よしつ、みんなで考えよう。ここから逃げ出す作戦を。

ジョン 無駄な努力だと思いがね。

ビート ジョン、あんたはこのボスだろ。一緒に考えてくれ。

ジョン ……。

マックス 最後の最後まであきらめずに行こうぜ。

一同 (ジョン、レオ、チャコ以外) うん。

ジョン 逃げるって言ったって、どうやって逃げるんだ。

マックス じゃあ、あんたはただ死を待つだけか？

ジョン 私だって、生きたい。あきらめたくはない。死ぬのは嫌だ。

マックス だったら、あんたもその小さな脳みそで考えてくれ。

ジョン ……。

ゴウン、ゴウン、ゴウンという機械音。

全員、神妙な表情で何やら考えている。

レオ 一つだけ、方法がある。

一同 えっ？

レオ 食中毒にかかったフリをする。

ビート えっ？

レオ 全員、食中毒にかかったフリをするんだよ。手とか足とかしびれさせて……。

ビート (素朴に) くだらない。

レオ 何かくだらないんだ。食中毒にかかったふりをする。この係員が異常を発見する。私たちは、医務室直行だ。そこで隙を見て、脱走する。

チャコ そんなにうまくいかないわよ。

レオ やってみる価値はあるじゃないか。

マックス 飯は、朝と夜に一回づつ。

レオ 今朝の飯はもう食べた。それがあたったことにするんだ。

ジョン ドッグフードであたったなんて聞いたことないぞ。

レオ それを強引にあたったかのように見せかけるんだよ。

エルビス とても、うまくいくようには思えないな。仮に、医務室に運ばれたとしても、そこから、逃げられるかどうか。

レオ このまま、ここにいるよりはマシだろう。

マックス レオ、やっぱりあんたも逃げたいのか？

レオ 私はもう老齢だ。拾ってくれる人間もいないだろう。ただ、みんなのために協力しよう。

ナナ 逃げれば、誰かが拾ってくれるかもしれない作戦？

レオ そうだ。幸いなことに、ここにいるみんなは血統書付きが多い。

エルビス ご主人様が来るのを待ったほうがいいんじゃないのかな。

マックス 飼い主が来てくれる保障がない。俺たちには時間がない。

シヨコラ ……私は、もう少しご主人様を待ちたい。

ナナ 私も待ってみようかな……。

リリィ 私は、やってみようかな……。

ジョン でも、この作戦はみんなが食中毒にかかったふりをしないとリアリティーに欠けるんじゃないか？

レオ そうだな。みんなが食中毒になったほうがいい。

エルビス 俺は試してみてもいいぜ。

ビート 僕も協力しよう。どっちにしても、ここから早く出たほうが良さそうだから。

レオ シヨコラ、ナナ、最初だけ協力してくれないか。医務室に連れて行かれたあと、脱走しなければ、ここに戻されるはずだ。

シヨコラ その間に、ご主人様が迎えに来たら？

レオ ……。

シヨコラ 私は協力できないわ。申し訳ないけれど……。

一同 ……。

ジョン みんな、置かれている事情も立場も違う。

マックス 俺たちが出来るのは待つことだけか。ひどく退屈だな。

レオ よしっ、それなら、この作戦に賛同してくれる者だけで、やろうじゃないか。しびれて、痙攣でも起こしているフリをするんだ。具合が悪ければ、ここから出られる機会ができるかもしれない。

ビート ジョン、あなたは どうする？

ジョン やるよ。とてもうまくいくようには思えないが……。

マックス シヨコラとナナはやめておくのか？

シヨコラ うん。

ナナ ……。

マックス ナナ、どうするんだ？

ナナ どうしていいかわからない。

レオ どうしていいかわからないときは、直感に頼るんだ。頭で考えるんじゃない。心に聞いてみるんだ。どうするべきか、心が教えてくれる。

ナナ、胸に手をあてて、しばらく考える。

ナナ ごめんなさい。私もやめておきます。

シヨコラ あたしもやめとくわ。恥かきそうだから。

ビート じゃあ、とにかくやってみよう、と思う者だけでやりましょう。

コツコツと足音が聞こえる。

足音が檻の前で止まる。

ジョン、マックス、ビート、リレイ、レオ、エルビス、檻の外に向かって、必死に苦しそうなフリをする。

ジョン おえっ。

ビート 苦しい……。

レオ もう、だめだ……。

コツコツと足音が遠のいていく。

マックス だめだ、今の係員、無反応だった。

リレイ やってみて、かなり後悔かも……。

ジョン 立ちあがっちゃだめだ。もしかしたら、扉が開くかもしれない。

しばらく扉をみつめる犬たち。

レオ 開かないな。

エルビス 俺たちなんて、どうなってもいいってわけだ。

マックス かつこ悪いなあ、俺たち。

ジョン そんなことはないさ。ただ生きようとしているだけだ。

エルビス だめだな、あきらめよう。

エルビスが立ち上がろうとしたとき、またコツコツと足音が聞こえてくる。足音が檻の前で止まる。

チャコ 係員じゃないわね。

シヨコラ 誰だろう？

ナナ 私たちのこと、じっと見てる。

シヨコラ 自分の犬を探してるのかな？

チャコ NPO法人ってやつじゃないの？

マックス だったら、ここから出してもらおうぜ。

全員 立ち上がり、

一同 助けてくれ。ここから出してくれ！

コツコツと足音が遠のいていく。

ナナ 行っちゃった……。

一同 ……。

チャコ 作戦は失敗ね。御苦労さま。

レオ おいつ、ジョン、いまは君の……。

ジョン、レオの口を抑える。

ビート ちよつと、ジョン、あんた何やってるんだ？

ジョン レオがくだらない作戦を立てたから、つい腹が立ってね！

レオ くだらない作戦とはなんだ！

ジョン でも、君にとつては、こんなに嬉しいことは……。

レオ あんな作戦に参加して嬉しいわけないだろう！

ジョン、またレオの口を抑える。

ジョン わかったか。わかったか、レオ！

レオ、口を抑えられたまま、何度も頷く。

ジョン、レオから手を離す。

ジョン すまない。少し興奮してしまつて。

マックス 落ち着いてくれなきゃ困るぜ。このボスはあんたなんだから。

ジョン そんなことは君に言われなくてもわかつてる。

雨がしとしと降り出す音。(SE)

チャコ 雨ね……。

リリィ あと三日。

一同 ……。

ピート 僕は、三日後、死ぬ。

リリィ あなたは、ご主人様が来てくれるでしょ。

ピート (うつむいて) いや、それが……。

チャコ あたしも、無理そうね。残念ながら。

ナナ いやだ。死ぬのはいや。

レオ どうして、こんなことになってるんだろうなあ。

ジョン マックス、お前、どうして飼い主の元から離れたんだ？

マックス こんなことになるとは思ってたんだよ。

ジョン 新聞配達のパイクに吠えるなんて、バカ犬の典型的な例じゃないか。

マックス ふざけるな。俺は俺で、いつでもご主人様に異常を知らせてただけだ。

ジョン だったら、逃げるな、バカヤロウ！

マックス 逃げたんじゃない。追っかけたんだ。首輪はたまたま外れただけだ。

ジョン じゃあ、どうして、お前のご主人は迎えに来ないんだ！

マックス それは、こつちが聞きたいよ！

ジョン ピート、お前の主人もなぜ来ない？

ピート だから、いろいろあるんだろ、きっと。

ジョン いろいろって何なんだ？

ピート だから、いろいろなんだ。それ以上、聞かないでくれ！

ジョン ショコラ、君の飼い主は？

ショコラ 大丈夫、私を今、探しているはずだから。絶対、大丈夫。

ジョン 遅いじゃないか。あと三日しかないっていうのに。

ショコラ ……。

エルビス ジョン、あんたのご主人は？

ジョン キャリーから出された時、僕は振り返って主人の顔を見たんだ。主人は、今まで

見たことがない悲しい目をしてたよ。

ショコラ だったら、助けてくれる可能性あるんじゃないですか？

ジョン その悲しい瞳が、僕を捨てた、という意味だろう。

エルビス 他に、ここで、助かりそうなのは？

チャコ (エルビスに) あなたは？

エルビス 死ぬよりは、ゴルフクラブで叩かれてたほうがマシかな……。

ピート どうして7日なんだろう。少し伸ばして10日ぐらいまで待ってくれてもいいじゃないか。

希望がある者だけじゃないのよ、ここは。

チャコ ……。

ピート 不思議よねえ。死が迫っているというのに不思議に冷静。最後ってこんなものかしらね。

チャコ ……。

ピート もう一度、アランに会いたいなあ……。

ジョン 会えるさ。簡単にあきらめるな。君は、まだ助かる可能性はあるだろう。

ビート いや、実は、ジョン。僕もあなたと同じなんだ。
ジョン どういう意味だ？

ビート 希望がない。僕のご主人様は来ない。それだけはわかってるんだ。
ジョン だって、君は捨てられたわけじゃないだろう？

ビート 僕の主人は、うつ病なんだ。僕を飼う時から患っていてね、寂しい気持ちを僕が
癒してたんだ。でも、病気は進行してしまっただけ、入院してしまっただけ。
マックス アランに会いたくて、庭から逃げ出したんじゃないのか？

ビート すまない。僕も自分が捨てられた、とは思いたくなくて嘘を言った。
一同 ……。

ビート 僕の主人はここに現れることができない。

ジョン、ビートの肩を軽く叩く。

ビート あと三日、どう過ごしていけばいいか……。

レオ ただ死を待つだけか……。

ジョン みんなでパラダイスランドにしようって言ったじゃないか。
命があると思ってた時はそれでもよかった。

レオ 希望を捨てるな。奇跡が起こることだってあるかもしれない。
リレイ でも、レオはあきらめてるんでしょ？

レオ 私はもうこの年だ。死が恐くないと言われれば嘘になるが、若い君たちよりも、
あきらめがつく。しかし、君たちは……。

一同 ……。

チャコ もうやめましょ。助かるかもしれない仲間だっているわけだし。

ビート そうですね、深く考えてもね。

リレイ そうそう、きつと死ぬときなんて、こんなものなのよ。

チャコ あきらめついでにやええ、こっちのもんよ。

ナナ あー、あと三日何しよう。天国ってどんなところなんだろう？

ビート そうそう、人間は死ぬと極楽浄土というところに行くらしいね。
でも、私たち、犬だけ……。

ナナ 行けるさ。ここよりはいい場所に決まってる。

ビート だったら、早く死んじやいたい！

ビート あー、なんだかなナナちゃんと話してたら、死ぬのも悪くないかなって思えてきた
よ！

ナナ おばあちゃん、私、先に行行って待ってるね。

ビート そうだ、君の飼主は、すぐに天国に来てくれそうさ。うらやましいなあ。

ナナ えへっ！

ビート いひっ！

マックス 黙れ。ムカムカする。

ビート そんなこと言われてもなあ、いいよなあ、君は助かるかもしれないから。

ナナ ほんと、うらやますいー！

マックス そんなのわからねえだろ。

ビート そしたら、一緒に天国行く？

ナナ 行く？

マックス 行かねえよ。こんなところで死んでたまるか！

シヨコラ ねえ、ちよつと冷静になつて。

ジョン そうだ、やけにならないほうがいい。

エルビス 同感だ。

ビート だったら、どうすればいいって言うんだ。僕は何のために生まれてきたんだ。こ

んな檻の中で死ぬためか。なあ、誰か教えてくれよ。

一同

……。

ビート 何のために生まれてきたんだ、僕は……。

チャコ じゃあ、逆に意味のある生き方って何？

ビート

……。

チャコ みんな最後は死ぬのよ。何をやっても。

リリイ 楽しい思い出をもっともつと作りたかったかなあ……。

シヨコラ ねえ、リリイはどうしてここへ来たの？

リリイ

……。

シヨコラ ごめんなさい。余計なこと聞いちゃつて。

リリイ

別にいいの。あたしも、捨てられたのよ。二年前、ご主人様の家族がバラバラに

なっちゃつてね、あたしは、ご亭主のほうに引き取られたんだけど、お酒ばかり

飲んで散歩にも連れていってこれないの。

エルビス ひどい飼い主だな。

リリイ でも、ご主人様の家族と行った沖縄旅行はいい思い出。飛行機の貨物室は暗くて

嫌だったけど、沖まで広がるエメラルドグリーンのは、本当にきれいだった。

ジョン 沖縄はいいところだ。僕も行ったことがある。丘の上から眺めた東シナ海。あの

海の向こうには広大な大陸が広がっているそうだ。

ビート 広大な大陸かあ。どこまでも走っていけそうだなあ。

ジョン ああ、僕もそれを聞いた時、遠く水平線の先にある大陸を思つて、そこで思い切

り走り回りたい、と思つたもんだよ。

ビート そういえば、僕も一度、秩父の温泉に行ったことがある。犬用の松（ひのき）風

呂があつてね、ご主人様と一緒に優雅な入浴タイムさ。あれは、いい湯だったな

あ。

レオ 旅行か。私も一度は、経験してみたかった。

リリイ レオは、旅行経験なし？

レオ ないねえ。ただ近所の公園に池があつてね、そこに蓮の花が咲くんた。薄いピン

ク色の綺麗な花でね、私は明け方の公園でその蓮の花を眺めるのが、本当に楽し

みだった。

エルビス 僕は、ご主人様と一緒に軽井沢に行ったことがある。ご主人様の別荘があつてね、

森に囲まれてて空気がきれいなんだ。テニスコートがあつてね、ポンポン跳ねる

テニスボールをずっと見てた。ボールが僕のところに来るとね、そのボールをく

わえて遊んでた。

ナナ うらやましい。旅行なんて。

チャコ ナナのご主人様はおぼあさまだもんね。旅行には行かなかったの？

ナナ 旅行はなかったけど、私は、ソファアの上でまったりしているだけで十分。そこでご主人様がハーブティーをすすする音を静かに聞いている。不思議と落ち着くのよね。

ジョン 何を幸せに思うかは、皆それぞれ違うもんだ。

チャコ あたしたち、こんなこと話していいのかしらね、あと三日しかないっていうのに。

一同 ……。

レオ 話そう。話してなくちゃ不安ばかりが募る。考えても仕方がないことは考えないに限る。

ビート 何の話をしましょうかね？

シヨコラ 好きな食べ物とか？

ビート はい、キューリ。あれはコリコリしてて歯こたえがよくて、ほどよい塩かけんが何とも言えない。

ナナ はい、あたし、ケーキ。ときどきおぼあちゃん、分けてくれたの。イチゴも好き。

リリイ あたし、普通にドッグフードかな……。

エルビス ビーフジャーキー。

チャコ お茶。緑茶。あの渋みがたまらないわ。

シヨコラ えーと、私は、私は、たくあん。

ジョン たくあんか。あれは一度、食べたが僕はだめだった。

レオ 私は何かなあ。あつ、さくらんぼ。あれはおいしかった。ほんのりとした甘みがいいね。

マックス ……。

ジョン どうした、マックス。

マックス 好物がみつからない。どれもこれも、そこそこうまい。かと言って特別うまいものもない。

ジョン ずいぶん、寂しいな。

マックス そういうあんたは何が好物なんだ？

ジョン 僕は、チャーハンだ。

マックス チャーハン？

ジョン チャーハンと言つてもいろいろあるんだ。僕はキャベツチャーハンが大好きだった。

マックス 食べたことがない。

ジョン それは、ちよつと損してるね。あんなおいしいものはないのに。

マックス 食べてみたかったなあ、チャーハン。

シヨコラ 人間はいろいろなものを食べるわよね。

リリイ 私のご主人様は人間の食べ物であたしに与えなかったのよね。

エルビス 人間の食べ物、僕ら犬には有害だと聞いたことがある。
レオ 塩分が強いらしいね。

マックス そうだ、俺、一つあった。味噌汁ぶっかけご飯。一度だけ食わされた。あれ、うまかったなあ。

ジョン 味噌汁か。あれはしょっぱい。だめだ、食うもんじゃない。

マックス 俺の好物にケチつけてもらいたくないね。

ジョン 君にも食べさせてやりたかったよ。キャベツチャーハン。

ビート 食べるなら、キューリだ。

エルビス ビーフジャーキー。

ナナ ケーキ。いちごが乗ってるやつ。

シヨコラ たくあんよ、たくあん。

チャコ 緑茶が一番よ。緑茶が。

リリィ それって、食べ物じゃなくて飲み物だと思う。

ジョン チャーハンだ。チャーハンに決まってる。キャベツ入りじゃなきゃだめだ。

マックス 味噌汁ぶっかけご飯。

レオ さくらんぼだ。さくらんぼ。

一同 ……。

レオ もう二度と食べられないかもしれないな。

マックス そういうこと言うなよ。気分が落ち込むだろ。

レオ 老いぼれのつぶやきだ。大して意味はない。

一同 ……。

マックス 何か話そうぜ。いろいろ考えちまうから。

ビート 楽しい話がいいですね。いい思い出というか。

チャコ そうね、こういうときは悪いことばかり考えちゃうもんだからね。

マックス いい思い出か。ありそうだけど、浮かんてこないもんだな。

チャコ あたしはね、ご主人様を買ってくれた真紅のワンピース。背中におっきなりボン

がついててね、そのリボンをふりふりさせながら、歩くのが本当に楽しかったの。

おしゃれて楽しいのよね。

シヨコラ あたしのお気に入り、ピンクのチェック柄フリルドレス。帽子まで付いてるの

よ。ドレスは10着ぐらいあったと思う。

チャコ うらやましいわね、ご令嬢は。

シヨコラ ああ、家を出るなんて、なんて馬鹿なことしちゃったんだろう、あたし。

チャコ 宮殿から逃げ出して、牢獄に入れられたようなもんね。

マックス チャコはシヨコラに厳しいな。

チャコ マルチーズに負けるのは、トイプードルのプライドが許さないのよ。

ビート まあ、チャコさん、落ち着いて。

チャコ もう一度着たかったわ、真紅のワンピース。

ジョン 私はもう一度、若い頃に戻ってフリスビー大会に出場したい。ご主人様の子供と

ペアになって、参加したが楽しかった。一生懸命フリスビーを追いかけていたら、

家族みんなで褒めてくれてね、あれは本当にうれしかった。

雨の音がやむ。

ビート 辛いなあ。

チャコ あなただけじゃないわ。ここにいる仲間、みんな。

マックス 明けない夜はないって、俺のご主人様はつぶやいてたけどな。

チャコ 夜のままってこともあるんじゃない？

一同 ……。

ビート 誰か一匹でもいいから助かるといいですね。

シヨコラ でも、あたし、みんなを置いて出て行くのも辛くなっちゃうかも。

一同 ……。

ビート こうしませんか。もし、誰かがここから出られることになったとしても、僕たちは恨まない。その幸運を祝福するって。

ナナ うん、それいいかも。

レオ そうだな、みんなで祝福しよう。

シヨン、気まずい表情。

シヨン 実はみんなに話さなきゃいけないことがある。

ビート なんですか？

シヨン 実は、僕の飼い主がさっき、ここへ来た。

一同 ……。

チャコ おめでとう。良かったじゃない。

シヨン いや、それはそうなんだけど……。

リリィ おめでとう。

シヨン (控え目に) ああ。

シヨコラ 嘘ー？ 私よりも先に出るわけ？

シヨン いや、君のご主人様も、きつと来るよ。

シヨコラ ごめん。なんだか泣きそう。私が一番最初に出られると思ってたから。

シヨン きつと大丈夫だよ。まだみんな三日もあるじゃないか。

レオ シヨン、よかったな。

シヨン (レオに) さっきはすまなかった。なんだか、みんなに悪いような気がして、それで黙っておいてもらった。

マックス さっきの人影があんたの飼い主だったのか。

シヨン ああ、そうだ。

マックス もっと喜べよ。ここから出られるんだから。

シヨン ……。

ビート 何かお祝いでもしましょうか？

チャコ どんな？

ビート 胴上げでもしましょうか。ほらっ、テレビで野球ってものを見たことありません

か。優勝すると、監督が胴上げされるんです。あれって祝福ですよ。
ジョン　いいよ。胴上げなんて。とてもそんな気分になれない。

ビート　でも、幸運は祝福するって言ったばかりだし。

ナナ　私、やってもいいですよ。

エルビス　そうだな。みんなで胴上げして祝福しよう。

全員、ジョンの周りに集まってくる。

ジョン　やめてくれ。それだけはやめてくれ。僕だけが助かったって意味がないじゃないか。みんなが助からなきゃちつとも嬉しくない。

チャコ　でも、みんなは無理なのよ。

ジョン　どうして無理なんだ。どうして死ななきゃならないんだ。どうなってるんだ、世の中ってやつは。

マックス　助かるんだから、いいじゃないか。

ジョン　悔しいんだよ、私は。

一同　……。

エルビス　こんなものなのかもしれませんよ。

レオ　ああ、こんなものなんだろう。

ジョン　僕は納得できない。戦いたいが、振り上げた拳を振りおろす場所がない。何なんだ！

エルビス　生きるってなんなんだろうなあ……。

レオ　運命を全（まっ）とうすること。途中で投げ出さずに。

マックス　そんなことになんの意味がある？

エルビス　犬はいつでも忍耐さ。ご主人様の帰りを待つ。ご飯を待つ。散歩を待つ。遊んでくれるのを待つ。そして、死を待つ。

レオ　それが犬として生まれた私たちの運命だ。

マックス　散々、我慢して、ご主人様に尽くして、その結果がこのザマか。

レオ　運命なんだから、仕方がない。

マックス　運命、運命って、そんな言葉で簡単に片付けるなよ。

レオ　じゃあ、ほかにいったいどういう解決の仕様があるんだ？

エルビス　俺たちが生きてきた意味はなんだろうなあ……。

シヨコラ　思い出を作ってきたんだと思います。ご主人様に、私たちと暮らしたたくさんの方の思い出を……。

マックス　（冷めた口調で）思い出作りか。

リリィ　幸せだったなあ。ご主人様に可愛がられていたときは。

ビート　そうだな、幸せだったな。

ナナ　捨てられなきゃ最高だったのに。

チャコ　そうね、捨てられる前に死ねれば最高だったわね。

リリィ　あと三日あるのに、三日もない気がする。

ビート　あと三日しかないんだ。いろいろ思うのは仕方がないさ。

ジョン 具合が悪くなった。少し横になるよ。

ジョン、寝そべる。

チャコ 助かるっていうのに不思議なことね。もつと喜んだらいいのに。

ジョン どうすればいいか、わからないんだ。

マックス お別れだな、ジョン。

ジョン やめてくれ。

リリィ おめでとう。

ジョン おめでたくない。

エルビス 素直になりなよ。

ジョン 素直になってるさ。こんな状況で僕だけが助かる。みんなのことを思うと喜べるわけがない。

チャコ あのねえ、まだ三日あるのよ。まだ助かる子だっているわ、きつと。

ジョン 助からないやつもいる。

エルビス はつきり言うなあ。

ジョン 現実なんだから仕方がないじゃないか。現実から目をそむけることはできないよ。

エルビス これは現実だ。夢を見るわけじゃない。

ジョン そんなことは言われなくてもわかっているよ。

チャコ 僕の苦しさをわかってくれないから、はつきりと言わなきゃいけないんだ。

ジョン、ちよつと、あんた落ち着きなさいよ。

チャコ いっそ、君たちのことを忘れられたらいいが、そういうわけにもいかない。

ジョン 忘れるわよ、そのうち。私たちのことなんて。

レオ 忘れないよ。忘れるわけがないだろう。

ジョン 残されるほうも苦しいか……。

一同 やっぱり、ここから抜け出そうじゃないか。もう一度、みんなで方法を考えよう。

ジョン ……。

ジョン 僕が出るときに、あの扉が開くはずだ。そのときにみんなでダダーつと逃げ出すんだ。

チャコ この檻から出れたって、また連れ戻されるだけよ。だから、さっきの作戦も参加しなかったの。

ビート 外に出れば、誰かが拾ってくれるかもしれない。

チャコ 可能性は限りなくゼロよ。

リリィ もう忘れましょ。終わったことは。

ナナ そうですよ。みんなで仲良く。

マックス そうだな。仲良くあの世まで……。

レオ (マックスに) どうして君は、そういう毒を吐くかなあ。ここに来てからずっと思ってたんだ。君は言いたいことを言いきるよ。

マックス 言いたいことを言って何が悪いんだ。

レオ (マックスに) 君の一言で傷つく者もいるんだ。君だけが生きている世界じゃな

いんだぞ。

マックス ここまで来て、説教かよ。将来もねえかもしれねえのに。

レオ ……。

シヨコラ まだ少なくとも三日ありますよ。

ナナ まだ死ぬって決まったわけじゃないし。

マックス 決まってるんだよ。

ナナ えっ？

マックス 黙ってて悪かったよ。俺もビートと同じだ。脱走したわけじゃない。

一同 ……。

マックス 俺の主人は転勤で社宅に入ることになった。結局、僕を飼えなくなって、主人は僕を捨てた。捨てるしかなかったんだ。

ジョン 新聞屋を追いかけて、出てきたんじゃないのか？

マックス 俺もレオと同じだよ。確かに、飼い主に裏切られたとは思いたくないもんだ。今までの記憶は！ 温かかった思い出は！ 尽くして来た苦労は！

エルビス マックス、落ち着いて。

マックス ふざけんな、バカヤロウ！ こんな世の中、滅びてしまえばいいんだ。人間は滅びるべきだ。悪いのは人間だ！

ビート そうだ、悪いのは人間だ！

マックス 全部、人間が悪いんだ！

シヨコラ そんなことない。人間は悪い人ばかりじゃない。私は運が悪くて、ここに來ているだけ。

マックス 迎えに来るとは限らねえだろうが。なあ、いっそのこと俺たちと一緒に死のうぜ。

シヨコラ いやよ。

チャコ マックス、あんたなんてこと言うの！

マックス もうどうでもよくなってきたんだよ、俺は。ここは、気が狂いそうになる。

ゴウン、ゴウン、ゴウンという機械音。

マックス なんなんだ、この音は！ 仲間たちを殺している音か？

レオ マックス、この音はそんな音じゃない。

マックス そんな音に聞こえるんだよ、俺には。

レオ すまなかった。君のことに何も気付かなかった。すまなかった。

マックス (自分に) くっそ！

ナナ ああ、なんだか私、もう疲れちゃった。どうでもよくなってきた。

シヨコラ そんな悲しいこと言わないでよ、お願いだから。

ナナ シヨコラはいいね、まだ希望があつて。

シヨコラ あなたにだつてあるわよ。

ナナ ……たぶん、私はここで死ぬんだと思う。

シヨコラ だから、そういうふうにするのはやめてよ。

ナナ ありがとね、私のために悲しんでくれて。

シヨコラ 私だって、どうしたらいいか、わからないのよ。

シヨコラ、しやがみこんでしまっ。

レオ 運命というのはむごいな……。
チャコ 何の前触れもなくやってくるのね、不幸って。
レオ 乗り越えるべき壁が、死だなんて、あまりに高い壁だよ。
チャコ もう、完全にあきらめてるのね。
レオ あんたもそうだろう。それとも、まだ希望が？
チャコ 奇跡……もし、そんなものがあつたら、助かるかもね。
レオ 奇跡か……。
リリイ 奇跡に頼るしかないか……。
ビート なんだか寂しいな。奇跡しか頼りがないなんて。
シヨン まだ、三日ある。まだ三日……。
チャコ あたしの分まで長生きしてよね。
シヨン そうするのは、勘弁してもらいたい。
チャコ 冗談よ。

コツコツコツと靴音がして、檻の前で止まる。

レオ 誰だ？

シヨン 誰かの飼い主じゃないのか？

シヨコラ ……私、私のご主人様、やっと、やっと来てくれた。

暗転。

キーンコーンコーンと、チャイムの音。

明りがついて、七日目。

すべての犬たちが横たわっている。

その犬たちの中にシヨコラはいない。

チャコ シヨコラ、いまごろどうしてるかしらねえ。
ビート うまい飯でも食べてるんじゃないですか？
リリイ うらやましい。ペディグリーチャムだあ……。
エルビス 最後の晩餐に出してもらいたいね。ペディグリーチャム。
レオ 最後の晩餐か……。
マックス 辛気臭えなあ。
シヨン 仕方ないだろう。もう七日目なんだ。
ビート 明日の朝がやってこないなんて信じられないなあ。

エルビス 死刑だね。何もやっちゃいないのに。
ナナ 理不尽の塊。

マックス 理不尽と言えば、ジョンだ。

ジョン もう、その話はやめてくれないか？

マックス 暇つぶしだよ。あいつはいったい何をしに来たんだ？

ジョン 私の主人をあいつ呼びわりはやめてくれたまえ。

マックス おかしいだろ。ここまで来て、あんたの顔を眺めて、そのまま帰っていくなんて。

ジョン だから、何度も言ったじゃないか。ご主人にはご主人様の事情があるんだ、と。

チャコ 本当に引き取るつもりだったのかしらね。

ジョン そうじゃなかったら、ここまで来ないだろう。

マックス でも、心変わりした。

ジョン 一度でも、顔を見せてくれたのはありがたいことだよ。

エルビス 僕なら恨むね。変な期待を持たせた分だけ罪だよ。

ジョン だから、ご主人にはご主人の都合があったんだよ。

マックス はつきり言っちゃえよ、もう最後なんだから。恨んでますって。

ジョン 恨みはしないよ。悔しいがね、ちよっと。

ナナ 天国と地獄は紙一重。

ビート ナナちゃんは、ここ数日、かなり厳しいね。

ナナ そりゃそうでしょ。こんなことになってるわけだから。かと言って、病氣のご主

人様が悪いわけでもなく……。

マックス 恨まずにすむってことは幸せなことだぜ。

ビート そうだね、幸せなことだと思うよ。

ナナ 何が幸せなのよ。死んじゃうのに。

レオ どうにかしてやりたいもんだが、どうにもできない。

チャコ 何もする必要はないのよ、ここまで来れば。

ビート 死ぬときって苦しいのかな……。

マックス レオ、俺たちはどんな死にかたをするんだ？

レオ 知らんと言ってるだろ。

マックス 嘘つけ。

チャコ そうね、そろそろどんな死に方をするのか知っておいてもいいかもね。

一同 ……。

レオ 言わないよ、私は。これだけはね……。

ジョン 今さら、何を隠す必要があるんだ。知らないほうが、恐ろしさが増すってもんだ。

レオ 知ってもいやなものなんだ！

マックス 全部、白状しちまえよ。面倒くせえ。

レオ 投げやりになるな。

ビート そんなこと言われても、もう何もかもどうでもよくなるよ。

チャコ 今までいろいろ悩んでたことが馬鹿みたいに思えるわ。どうせ、全部なくなっちゃうものだったんだ。

レオ 死ぬ間際までわからないもんだね……。

ピート だったら、どんな死に方をするのか、教えてくれてもいいのに。
レオ 君は死ぬまで私を悩ますつもりか？
マックス 全部なくなるって言ったじゃねえかよ。
レオ だから、教えなくたっていいじゃないか。どうでもいいんだから。
マックス チッ！
ジョン レオは最後まで頑固だ。
レオ 悪かったね、これが私の性格でね。

ジョン、仰向けになって、天井を眺める。

ジョン もう空を仰ぎ見ることもできないか……。
リリイ この部屋、蛍光灯が並んでる。
ジョン つまらん空だ。
リリイ 空じゃないでしょ。これは。
ジョン そうだ、ご主人様と一緒に海に行った時のことを思い出したよ。真つ青な空の下で、砂浜を駆け巡った。
ナナ 私、海を車の中から、見たことがある。
ジョン 海は最高だぞ。風も気持ちがいい。心を解放してくれる。自然の宝物だ。
エルビス 海か。行ってみたかったな。
ジョン 私も軽井沢に行ってみたかった。
レオ 最後によぎるのは、思い出だな。
ジョン いい思い出ばかりだ。悪い思い出なんて、思い出したくもない。

一同、微笑する。

マックス 俺もご主人様の腕を噛んだ感触がたまらなくて、他にもたくさん人間を噛んだ。
ジョン その挙句がこのザマだ。
（マックスに）話を折るのが好きだな、君は。悪い思い出は思い出したくないと言ってるんだ。
マックス ガブリとやった感触がたまんねえんだよ。やっぱり俺たちは肉食動物だな。悪い思い出じゃない。
レオ 私もよく骨のおもちやを噛んでいたよ。ゴムだったが、噛むと気分が落ち着く。
ナナ 私たちの祖先ってオオカミらしいですよ。
エルビス だから、遠吠えをする。仲間に聞こえるように。
チャコ （エルビスに）あらっ、意外。孤独を愛するオスだと思ってたわ。
エルビス 誰にも邪魔されない時間は甘美な香りが漂う。自分だけの時間に酔いしれることができる。でも、仲間といたいと願うときもある。
マックス 残念ながら、里親探しのボランティアは、来そうにないな。
エルビス 予定が狂ったよ。死ぬくらいだったら、まだゴルフクラブで殴られてるほうがよかったかな……。

ナナ 虐待受けてたの？

エルビス ああ、僕の主人は機嫌が悪くなると、僕を叩くんだ。

ナナ それで抜け出してきたの？

エルビス ああ、そうだ。

ナナ ひどい飼い主ね。

エルビス ああ。

ジョン 不思議なもんだ。明日はないっていうのに、僕の心はひどく落ち着いている。こんなものだろうか……。

レオ あきらめがついたってことだろう。

ジョン どうでもいいや。人間社会も犬社会も。

チャコ そうね、もうどうでもいいわね。

エルビス それにしても、ジョン、あんたのご主人はひどいよ。何をするためにここまで来たんだ。自分で捨てておいて、どうして顔を拝みに来るんだ。

ジョン わからないよ。思い出したくない。もうどうでもいい。

エルビス 君は助かるかもしれない。

ジョン どうして？

エルビス そんな予感がする。

ジョン 最後の日におかしな希望を持たせないでくれないか。

ナナ 最後の日……。

チャコ ナナは、不憫だわ。若すぎる。

レオ そうだな、私のような老犬はどうでもいいが。

ビート 何とかしてあげたいけど、どうすることもできない。

ジョン マックスもまだ若い。

マックス 最後にガブリと、係員に噛みついてやるさ。思い切り、血が出るほど噛んでやる。恨みを込めて。

エルビス 人間はやりたい放題だな。犬は人間様のいいなりで命まで奪われる。

チャコ 恨むべきかもね、どんな事情があろうとも……。

ナナ 力には勝てないのね。圧倒的な力には。良いとか、悪いとか、全然、関係ないんだ。

ビート 弱肉強食が自然の掟だとしても、とても納得できない。

レオ さて、私たちは何を叫んで旅立とうか？

チャコ 一匹でも、私たちと同じような境遇に立つ仲間が減りますように。

ジョン そうだな。

リリィ うん、それでいい。

ゴウン、ゴウンと機械音。

マックス まったく耳障(ざわ)りな音だな。

レオ 冷房でもかかっているんだろう、夏ももう近いから。

マックス そうだとしても、俺たちを脅迫しているように聞こえるよ。

リリイ 脅迫？
マックス 死ぬぞ、死ぬぞってさ。
ジョン もうよそう。あきらめも肝心だ。
マックス どうして死ななくちゃいけないんだ！
レオ お前さんが言わなくても、みんな思ってることだ。
マックス だったら、どうして叫ばない。これはおかしい、とどうして叫ばないんだ？
レオ 今さら、吠えたところでどうにもならんだろ。
マックス 悔しいなあ、俺は本当に悔しいよ。
ビート ああ、悔しさでいっぱいだ。
チャコ 仕方ない、そんな言葉で片付くことじゃないわね。
リリイ 死にたくない、私。
ナナ 私も。
ジョン 何か僕たちが生きた証を残そう。
チャコ 生きた証？
ジョン そう、僕らは生きていたんだ、と。
一同 ……。

マックス、ゆっくりと爪痕を残すように床を掻き始める。
ジョン、マックスの様子を見て、床を掻きはじめ。
全員、無念の思いを彫り込むように床を掻く。
コツコツと足音が聞こえてくる。
一同、檻の前に立っている人間を、仰ぎ見る。
一際、大きくなる機械音。
暗転。

舞台前に立ちすくんでいるジョン。
ジョンの少し後ろにシヨコラの姿がある。
二匹の後ろに、マックス、ビート、リリイ、ナナ、チャコ、レオがいる。

レオ よかったじゃないか、ジョン。
ジョン ああ、ありがとう。
ビート ご主人様は何て？
ジョン 新しく引越す場所は犬は飼えなかったらしいんだ。でも、特別に大家さんから許可がもらえたらしい。僕は引越しが終わるまで君たちと一緒にだった。
マックス こっちは苦しい思いをしたよ。
リリイ 二酸化炭素で窒息死なんてあり？
エルビス もう少し、優しく殺してもらいたかったよ。
ジョン すまない、みんな。
レオ どうして謝るんだ？

ジョン 僕は、生き残ってしまった……。

エルビス 幸運だよ。助かってよかった。

ジョン 無念だなあ、苦しいよ。

チャコ ショコラ、聞こえる？

ショコラ チャコ……。

チャコ 助かってよかったわ。あなたが助かってよかった……。

ショコラ ごめんさない。

チャコ 謝ることなんてないのよ。

ショコラ みんな、ごめんない。

ナナ ショコラ、たまには私のことも思い出してね。

ショコラ 忘れないわ、あなたのことみんなのことも。

ジョン ナナ、君はまだ若かったのに……。

ナナ 運命ですよ。

ジョン 納得できないよ。運命で片付けたら、すべてが許されてしまうじゃないか。

ビート 死んだ僕たちは、そう思うしかないんですよ、運命だって。

レオ 私たちの分まで、いい思い出をたくさん作ってくれ。

マックス そうだ、俺たちが絶望の中で最後に見出した希望は、たくさんのいい思い出だった。

チャコ 何にも変え難い、いい思い出を、たくさん……。

ジョン ……天国に行けそうか？

レオ 当たり前だ。

ジョンとショコラ、天を仰ぎ見る。

強い光がジョンとショコラを照らして、やがて消えていく。
幕。